ルアー&エサでマダイに挑戦

鹿児島 錦江湾

イチバン・エイトグループ釣り研修

研修に参加したメンバー

鹿児島のマダイを満喫

インチクにきたマダイ

イチバン・エイトグループは、3月6日から8日までの3日間、鹿児島県での釣り研修を行った。狙うのは絶好調だった錦江湾のマダイ。船中100匹以上の好釣果を聞き、スタッフの気分も最高潮。期待を胸に、鹿児島へと向かった。

初日は観光を行った。綿密に練られた計画により、霧島神宮、桜島を巡り、短い時間ながらも鹿児島の魅力を最大限味わうことができた。

2日目はついに待ちに待った釣りの日がやってきた。今回お世話になるのは海晴丸と幸伸丸。どちらもマダイだけではなく、1年を通して様々な魚種を狙っているベテラン中のベテラン。

今回の研修では2グループに分かれ、ルアーとエサ釣りを交互に行うこととなり、私は1日目はルアー、2日目はエサ釣りグループとなった。

ルアーではインチク、タイラバなどでマダイを狙う。ポイントに到着し、早速釣り開始。まずはインチクであるバイレーツやキックボトムを使用。それほど流れが速い訳ではなかったため、100㍍を選択した。タックルはダイワ、シマノから最新機種をレンタル。

船中6人でひたすら巻き続けるがそれらしいアタリはなく、釣れた魚といえば、こっそり取り付けたジギングサビキ・マダイ用に掛かったエソのみ。別行動のエサ釣り班はなかなかの釣果が上がっているようだが、どうやらこちらは潮がよくないらしく、急きょアラカブ（ガシラ）狙いに変更し、ポイント移動。

釣りを再開し底をたたいていると、アラカブがヒット！　40㌢を超える良型の顔を見ることができた。船内のムードもよくなり数匹の良型アラカブが釣れたが、またもや沈黙。アタリすらなくなってしまった。

なんとかもう1匹釣り上げようと、手をかえ品をかえ頑張っていると、ついにアタリが！　ひたすら巻き上げていると、どうやらアラカブとは引きが違う。この力強い引きは間違いない！

引き上げてみると、やはりルアー班にとって当日初となるマダイ！　40㌢とまずまずの型で、インチクに取り付けたスイムシュリンプに食ってきていた。

その後はアタリもなくなり、納竿となった。結果はアラカブが5匹、マダイが1匹という少し寂しいものとなってしまった。一方、エサ釣り班はマダイが20匹釣れたとのこと。

翌日のエサ釣りに期待を寄せ、釣り上げたアラカブの煮付けとマダイの刺し身に舌鼓を打ちつつ、床についた。

ガシラなども手中に

研修3日目の海は、非常に荒れていた。だがここまで来て引き下がれないので、釣りの準備を始めた。エサ釣りはテンビンカゴフカセでマダイを狙う。2㍍、40㌢の弓形テンビンに2㍍、50㌢のクッションゴムを付け、仕掛けは5号ハリス10㍍に、マダイバリ11号のふかせ真鯛で、カゴ、オモリは80号。

荒れる海をポイントに向かって突き進んだ。しかし、ポイントに着き釣りを始める段階で、乗船していたスタッフ4人のうち3人がダウンしてしまった。

残りの1人と船長の2人で釣りを始めると魚の活性はよく、マダイとハマチが入れ食い状態。この日は底から10～12㍍にいるようで、サオに触れなくとも誘いをかけ、まきエが流れ出ている状態となっており、ひとりでに魚が掛かっていた。

最終日は活性高く入れ食いに

ウネリが強くなってきたので比較的穏やかなポイントに移動することに。するとダウンしていた社員もなんとか回復し、マダイを釣り上げることができた。

納竿直前、小さいアタリを逃さず電動リールの巻き上げでアワセを入れると、今まで感じたことのない重い引き。シーボーグ300MJ・Lが唸りを上げ、リーオマスター真鯛が限界までしなる。

ラストに66センチ釣り満足のいく結果に

手に伝わる振動に興奮しつつ巻き上げると、66㌢（4・5㌔）の大型マダイ！　2日間の最長寸を釣り上げた。

その後、ルアー班が納竿した知らせが入り、私たちも納竿。ルアー班はあまりふるわなかったらしい。3日目はなかなか厳しい状況だったが、最後の大ダイで全てを挽回し、満足のいく結果となった。

今回の研修は非常に有意義なものとなった。この経験を今後の業務に活かしていきたい。

▼問い合わせ　海晴丸☎080（5202）7733番。幸伸丸☎090（3194）9847番。

（フィッシングIBAN　喜多芳樹）